Takashima Toujyu Kai

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

2018.1.2₅

発 行 NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224 滋賀県高島市安曇川町上小川225-1 藤樹書院•良知館内 電話·FAX 0740(32)4156

思って藤樹書院のボランティアと関 生を知っている人が減少、 の八十八回と断トツに取り上げられ エキストラ二十名等、 わることになりました。 会にもっと近江聖人を伝承したいと ていたのに、 区役員として実行委員となりまし 屋根藁用藁の下作業奉仕五名、 ロケ用生家屋根葺藁提供協力五 現在はない為、 旧教科書で滋賀県で 製作支援など 映画を機

迎えています。 益財団法人に許可となり、 書院では毎年三回の祭典を行いま 平成十八年から理事となり、 四年から国の組織改革の中、 一月十一日は鏡開きといって、 六年目を 公成

をして、藤樹先生の理解を深めてられた人にお茶を勧めながら会話郷藤樹書院です。全国各地から来も学問や人の道を教えた、心の故 のはみな兄弟なり、と近隣の村人にわれも人も人間かたちあるほどのも をめざしています。先日、どちらか 時になるように、心の故郷づくり *万民ことごとく天地の子なれば た思いが叶い実現したようで 中江藤樹のふるさとを訪ねた 来訪者に心温まる 「熊本より」と答え

した後、

名と地元有志の女性八名が、 式にのっとった儒式祭典の行事で 経を拝誦します。 休で朝九時から四時半まで来訪者の す。藤樹書院では、良知館で有志六 を継いだ三男弥三郎の命日行事で孝 祭礼も何も出合被成候而執行被成 です。常省先生の書翰に「講堂春之 志が頂戴したことから始まったよう て連綿と続けられている行事です。 ・・・・」とあり、先生を慕う人によっ 七月二十三日は常省祭で、 接待をしています。 元旦にお供えした鏡餅を同 九月二十五日は儒 孔孟の書を研究 中江家 年中無

史跡 藤樹書院址

では、 ことになります。 年は三十六の都道府県からで、 すが近江聖人として、 間では全国の各地から訪問があった して敬仰されたということで、 を学者としてより、有徳の人格者と 「藤樹さん」と人々に親しま 年間六千人前後で 藤樹先生

あり、それに恥じない、 をテーマに、 団体と共に区民が心の通う里づくり れています。 樹先生の教えが拡まる事を願って 民敦礼郷、入彊不問織君郷・・・」と 佐藤一斎が画像賛で「・・・・尚 静かなたたずまいと藤 地域の奉仕

周思想を学び考え実践する

塾長 田中

もに、今日的意義を自分の頭で考 日々の生活の場で実践することを目 え、仲間と議論しながら考えを深め、 の著書を中心に藤樹思想を学ぶとと 一藤樹人間学塾」では、藤樹先生 的に毎月第一土曜日の午 後、開催しています。本 会報ではその模様をお伝

えいたします。 第73回人間学塾を安曇川 九月二日(土)午後、

の話を紹介しました。 話をされましたので、 性僧侶、青山俊薫師 国研修会で、日本一の女 われた「実践人の家」 公民館で行いました。 「人生を円相で生きる」 冒頭、八月に尼崎で行 そ 全 が

島藤樹会の

は現代でも通じる教えであり、皆が 認識を新たにしました。フリートー して諫めよ、と教えています。これ 道に外れるようなときは、勇気を出 が、孝経のこの章では、君主や親が 教えであると受け止められています 儒教は君主や親に従順であれという 章を学びました。一般に 『孝経啓蒙』の中の諫争 『孝経』を素読後、

> を楽しみました。 などについて議論しました。 キングでは、 学びの後は、場所を替えて懇親会 陽明学と朱子学の違い

くなどと話しました。 仏教の瞑想会に参加してきた話をし、 に田中が三田市内で行われた上座部 今月は女性が二名参加。冒頭、 学塾を安曇川公民館で行いました。 「慈悲の瞑想」をすると心が落ち着 十月七日(土)午後、第74回人間

べきかを教えています。 養人が組織の中で上司にどう対応す 蒙』の「事君章」を学びました。教 フリートーキングでは、現代社会 『孝経』を素読の後、 『孝経啓

においては、常時、組織や上司のこ とを考えていることは難しい。上司



要るが、正しい判断力を身に付ける 欠だなどの意見が出ました。 間学塾を安曇川公民館で行いました。 には、こうした人間学の修養が不可 に諫言する時には、勇気と判断力が 十一月四日(土)午後、第75回人

をご紹介しました。 を上手くまとめられているのでそれ 江藤秀亮様が博識で藤樹先生のこと を見学したいという全国各地からご 行を案内した話をし、その代表者 田中が藤樹先生ゆかりの地

ても議論を行いました。 切さについて考え、平和を保つ意義 迎えた子の悲しみの態を示し、喪に 蒙』の「喪親章(親をうしなうの 服する期間は、遺族の健康面から最 章) 」を学びました。父母の死去を など今日的ないろいろな課題につい 大実質二年とすると記しています。 フリートーキングでは、生命の大 『孝経』を素読の後、『孝経啓

があったが中味は藤樹先生の教えで 見があり、皆さん続けて学びたいと 遠になっている現代社会において てきたというものや、 できた『孝経啓蒙』が終わりました。 間学塾を安曇川公民館で行いました。 人として生きる道が何となく分かっ 「孝」の教えは大変重要だという意 ここまでで二十一カ月かけて学ん 道友の感想を聞くと、難しい言葉 十二月二日(土)午後、第76回人 人間関係が疎

> えて和やかに懇親会を行いました。 の感想でした。塾終了後、 場所を替



います。やさしい副読本もあります。 通釈』を学び、探求したいと思って 加ください。 晋一郎先生が通釈された『中庸解・ **八間学に興味のある方はどうぞご参** 『中庸』を藤樹先生が解釈され、 平成三十年一月からは中国古典

「藤樹人間学塾 今後の予定

◎3月3日 (土)、 5月12日 (土)、 1月6日 (土) 時間 15時~17時(原則) ◎6月2日 4 月 7 日 2月3日(土)

◎印は塾を終了後、別場所懇親会あり

場所 安曇川公民館

生きていくことが大切である。

のような確信を失わず、勇気をもって

うなことは、

断じてないのである。こ

ひじりの声 上田藤市郎

年余に、大塩平八郎が書院の修復費を 先生より大塩平八郎の方がよく知られ 献じていることを話す。皮肉なことに て説明している。先生の没後百八十 藤樹書院を訪ねる人々に書院につい

世の中を住みやすい所にしたいという がなかった。 びに的を当てて教えることに倦むこと は、身分や職業を問わず、個々人の学 を変えることは間違いない。藤樹先牛 めて重要であり、それが政治の在り方 私達一人ひとりの志、生きる姿勢が極 家に任せておけばよいものではなく、 きな責任を担っている。しかし、政治 成されるためには、昔も今も政治が大 幸福を願ってはいない。この願いが達 願いである。孔子様、朱子、王陽明も 人々の福祉に視点がある。自分だけの 藤樹先生も大塩平八郎も志す所は、

このようなものだとして、 ど、様々な悪徳がまかり通っているの 得したりしてしまう。 続くと、人々は、世間とは、政治とは は、やりきれない。このような現実が ごまかし、真実の隠ぺい、開き直りな 世界の国々でも、 わが国でも、 諦めたり納

藤樹紙芝居」 の紹介9

『新しい生活「小川村でのくらし」』

ました。 切腹命令を覚悟で小川村に帰ってき の職務も身分も捨てて、藩主からの さんを見守り、共に暮らすために 一十七歳の時に大洲藩(愛媛県)で 中江藤樹先生は、年老いたお 母

る。」と信じて、優しく見守りまし 人々は誰もが美しい心を持ってい すが先生は意に介さず、「全ての だけを持ち帰られる。」と心配しま を行いました。周りの人たちは「酒 の人たちに酒を売る商いを始めます。 強の傍ら、生計を立てるため、 り事なきを得て、小川村での母子に よる生活を始めることになります。 い、藩主や同僚藩士などの温情によ た従者とも、辛い別れをします。幸 門人に学問を教える時は無人販売 そして、長い年月、家に仕えてき 浪人となった藤樹先生は自分の勉 地域

> 2 た。

お城からの追っ手を気にしなが

ら、与右衛

は住みなれた大洲の家を出発しまし に、与右衛門さんと七助さんの二人

切に受け答えをしました。 ず、広い地域の人たちから親しまれ、 ていたようですが、誰に対しても親 信頼されて何かと相談を持ち込まれ いました。その結果、小川村に限ら 医療と多方面にわたる知識を持って また、藤樹先生は、農業、土木、

することよりも、価値があるというよ

しかし、理不尽なことが、徳を実践

門さんで統一しています。 樹先生」と親しみと尊敬の念を込め 生のようですが、紙芝居では与右衛 て呼ばれるようになったのは、後半

与右衛門「七助さん、私はもうこれ

以上、お殿様からのお許しが出る

のを待つことはできない。お城を

をうち明けました。

りを通して、新たな生活に踏み出し しい心が伝わればと願っています。 たちに人を信じる心や、思いやる優 ていく様子を描きました。 自身の勉学や、村の人たちとの関わ この紙芝居を見聞きして、子ども 藤樹先生が、小川村に帰ってから

七助「だんな様、お一人で出発され

ると切腹など重罪となる。

*脱藩=藩主の許可を得ずに無断

で藩を抜けて逃げることで捕ま

帰ることにする。

脱藩して明日の朝早く、

小川村

りでなりませんでした。 **与右衛門**『お城勤めを辞めて小川村 年老いたお母さんのことが、 衛門さんは、小川村で一人暮らす、 へ帰らせて下さい。 大洲でお城勤めをしている与右 気がか

(紙芝居)

い。

いっしょにお供させてくださ るのは心配です。どうか私もご

次の日、まだ夜明け前の暗いうち

ち切れそうな気持でもうこれ以上は 待ちきれないと思いました。 与右衛門さんは、おじいさんの時

> もに、近江 助さんとと 門さんは七 ました。 で帰ってき の小川村ま 与右衛門 七助さん 小川村ま

くることができた。 本当にうれし で帰って

ら言いました。 与右衛門さんは、 涙を浮かべなが

お願いして いるが、い と何度も

は、 右衛門さん まった。与 う二年半も 出ない。も まだに殿様 過ぎてし のお許しが 胸がは

新い生活小川村

与右衛門さんが現在のように 代から働いてきた七助さんに気持ち

七助 させていただき、暮らしたいと思 旅をすることができて、私もうれ ぬまでだんな様のおそばでご奉公 しゅうございます。これからも死 「だんな様、ここまでご無事に

ださい。

お願いします。だんな

します。一生、ここにおいてく

けました。 助さんに頭を下げてやさしく語りか がら言いました。与右衛門さんは七 七助さんは、与右衛門さんを見な

三百文のお金が入った袋を出して、

与右衛門さんはふところから銀

与右衛門「七助さん、 ありがと



の中へ入 い間、私 本当に長 じいさん う。七助 りましょ まずは家 の頃から

めに働いてくれて感謝しています。 たちのた

帰って新しい生活を始めてくださ ながら二人で貧しい暮らしをして 侍ではなくなりました。母を養い もらい何とお礼を言えばよいのや また、今度は近江までお供をして いくのです。七助さんは、大洲へ しかし、私はもうお城勤めの

に七助さんはびっくりしてしまいま 与右衛門さんの思いがけない言葉

> **七助**「えっ、だんな様、私は死ぬま でだんな様のおそばでお仕えいた **与右衛門**「七助さんも体を大切に な。」 さまを大事にお過ごしください。」

涙が光っていました。 与右衛門さんも七助さんの目にも、

した。

与右衛門「七助さん、私はこれから その中から二百文を七助さんの手に 与右衛門さんは、七助さんの手を が私からのお願いです。」 めて元気に暮らしてほしい。これ です。七助さんは、大洲へ帰って、 していけるか、まだ分からないの お母さんとどのようにすれば暮ら このお金を使って何か商売でも始

ます』の張り紙を出して、 した。そして、家の前に『お酒売り つくり酒屋へ出かけて酒を仕入れま さっそく、与右衛門さんは隣村の 勉強の合

七助「はい、だんな様、わかりまし

七助さんは涙を流しながら

た。長い間お世話になり、

ありが

とうござ

しっかり握りしめました。

与右衛門「村の人たちがよく買いに 来てくれる。ありがたいこと

親切な酒屋さんとして評判になりま るほど人気がでました。ていねいで 与右衛門さんの酒屋はびっくりす

ます。

だんな 十分

やり直し

ってまた、 大洲へ帰 いました。

ていると村人が酒を買いに来ました。 今日も、 与右衛門さんが勉強し

し始めた与右衛門さんは考え込みま 小川村に帰ってお母さんと暮ら

与右衛門「お母さんに孝行ができる があと銀百文残っている。これを だろうか。うーん。そうだ、お金 ら生活していくためには何かしな にも良いだろう。」 て少しずつ飲むようにすれば、体 えないはずだ。できるだけ安くし ければならない。どうすればいい ようになってうれしいが、これか たちは、お酒が高くてなかなか買 元手に、酒屋を始めよう。村の人

うですか。」

間に商売を始めました。

気を付け

お身体に

平吉「与右衛門さん、 ください。」 お酒を売って

与右衛門「おう、これは平吉さん、 で、今日はどのような仕事をされ お仕事は終わりましたか。ところ ましたか。」

与右衛門「そうでしたか。それはお **平吉**「はい、今日は雨が降ったり止 のお酒はこれくらいにしては、ど してきました。」

どっくりに半分ほど入れて渡し、 **与右衛門**「平吉さん、お酒は身体に 良いけれど、飲みすぎると良くな いし、明日の仕事にもさしつかえ 与右衛門さんは、平吉さんの 酒



与右衛門さ 平吉「与右 した。 んは言いま いた平吉さ んの話を聞

した。ま 分かりま 衛門さん、

た明日も

ました。いつの間にか、 りを大事そうにかかえて帰っていき そう言うと、お酒の入ったとっく 田んぼへ行ってがんばります。 小川村では

よっぱらってけんかをしたり、 に大金を使いすぎる人もいなくなり お酒

でなく、村人のために勉強会を開い うになりました。 たり、門人たちにも学問を教えるよ 与右衛門さんは自分の勉強だけ

与右衛門「そうだ。家の入口に酒の **与右衛門**「この頃は忙しくなってき かめと、 きたな。どうしたものかな。」 もいちいち店に出られなくなって て、村の人たちが酒を買いに来て と与右衛門さんは考えていました。 ますを置いて、 欲しい人



う。そう 分だけ入 とっくり は自分の てもらお は竹筒の れ、お金 に必要な

私は勉強や講義に 集中できる すれば、

そして張り紙を出しました。 金を入れる竹の筒を置きました。 入ったかめと、量るます、それにお 酒を自由にはかって持って帰って 与右衛門さんはさっそく、酒の ください。代金はその竹筒に入れ お酒のいる人は、かめにあるお

> **次郎**「与右衛門さん、そんなことを だけを持って行ってしまいます 門人たちはおどろいて言いました。 したらみんなお金を払わずにお酒 てください。店主

三太「私たちがかわるがわる番をし ましょう。」

も与右衛門さんは言いました。 **与右衛門**「いやいや、人はみんなだ れでもきれいな心を持っている善 と口々にいって心配しました。 人なんですよ。そんな悪いことを で

講義に精を出しました。 与右衛門さんは少しも気にせず、

するはずがないよ。」

るとちらっと、外の様子が見えまし 与右衛門さんが、部屋で勉強してい の「かも祭り」の日です。この日も 7 んなもおどろきました。 金はきちんと竹筒に入っていて、 毎日、夕方になって調べると、 今日 もいい お天気です。隣村 み代

かな。」

その日の売上帳に、 その様子を見ていた与右衛門さんは と、そのまま帰ってしまいました。 **与右衛門**『あれ、このあたりではあ 人は一升とっくり三本に酒を入れる を買いに来ているな。 まり見かけたことのない人がお酒 と、なんとなく見ていると、その

> 祭り』 の日はかも 升しかもそ お方に酒一 *ごんず じとち わらじ のわら =普通

門人たちは心配しました。 とさらさらと、筆を走らせました。 *がまはばき=がま(水辺に生え のすねに巻きつける脚絆 ている植物)の茎で作った、足 離など遠出の時に使用するもの。 に編み込んだ、はきもので遠距 紐通しを作らず、 紐をわらじ底

田んぼの

かに帰っていきました。 れると、家のほうに一礼をして、 分の財布からお金を出して竹筒に入 **与助**「お金を払わずにだまって三升 の人が店へ来て、酒は買わずに、 こともせず、気にもしない。なん 与右衛門さんは酒泥棒を捕まえる もの酒を持ち帰るとは悪いやつだ。 ところが四日ほどたつとまた、 て心の大きな人なんだろう。」 自そ

> **与右衛門**「人はみんな美しい心を持 っているんですよ。」 て帰っていきました。_

た人たちも温かい心地になりました。 てきました。 にこしながら言いました。そこにい れました、お酒を下さい。」 与右衛門さんは、いつもよりにこ 村の人が与右衛門さんの店へ入っ **勘助**「与右衛門さん、今日は疲

与右衛門「勘助さん、 日は何の仕事をされたんです お疲れ様、

がい、



五平「私なら探し出してでも、金を

払わせるのに、与右衛門さんは売

上帳に歌なんか書いていて大丈夫

や足が痛 たが、腰 いました 草取りを した。」 くなって しまいま 一日して

勘助「ありがとうございます。とこ **与右衛門**「それは大変でしたね。そ ろで与右衛門さん、ひとつ困って もらえませんか。」 ゆっくり寝れば、きっとまた、 れならこれくらいのお酒を飲んで いることがあるんですが、教えて 日は元気になりますよ。」

与右衛門「どうしたんですか。 さん。」

六兵衛「与右衛門さん、お金を入れ

『ごんずわらじにがまはばき知らぬ

勘助 た。与右衛門さんは、ちょっと考え うふうに、与右衛門さんに話しまし 勘助さんは、いかにも困ったとい ぐにくずれて、大弱りしているん ですよ。何とかなりませんか。」 んぼの石垣が、少し雨が降るとす 実は私の万木にある田

与右衛門「それは大変ですね。それ ず、石垣の下に松の杭を五~六本 なら、こうしてはどうですか。ま れないと思いますよ。」 積んでみてください。きっとくず 打ち込んでから、もう一度石垣を

勘助「はい、それなら簡単なことで ざいました。」 す。やってみます。ありがとうご

勘助「よかった。与右衛門さんは何 れず、びくともしませんでした。 かりして、秋の大雨や台風にもくず と、勘助さんは感心しました。 でもよく知っている人なんだな。」 んの言う通りにすると、石垣はしっ さっそく、勘助さんが与右衛門さ

ヨシ「与右衛門さん、子供が『おな さい子供を抱いて、与右衛門さんの 家へかけこんでいました。 村のヨシという若いお母さんが小

す。どうしたら良くなりますか」 与右衛門さんは子どもの様子を見 かが痛い』と、しんどがっていま



さんは家の 与右衛門 うか。」 与右衛門 たのだろ も、食べ いもので 「何か悪

ヨシ「与右衛門さん、 んに渡しました。 **与右衛門**「これを煎じて飲ませなさ のが治ると思いますよ。」 と、いって草の干した物をヨシさ い。明日の朝には、おなかの痛い これは何の葉

与右衛門「これはね、ゲンノショウ っぱですか。」 たいてい一晩寝たら治るでしょ 干した物ですよ。普通の下痢なら コという薬草で、葉を摘み取って

*ゲンノショウコ=原野などに自 生する多年草。茎、 め、健胃に有効。 葉は下痢止

いいのですか。」

ヨシさんはお礼を言うと急いで

あるとき、こんなことがありま

帰っていきました。 次の日、また、与右衛門さんの家

ヨシ「与右衛門さん、 ざいました。」 ョウコのお蔭で子どもはすっかり 元気になりました。ありがとうご あのゲンノシ



した。 与右衛門 を下げてお 礼を言いま

ーそうで

さいよ。」 食べ物に気を付 けてあげてくだ ばらくは

奥へ入り、

与右衛門「おう、これはおいしそう うれしそうに帰っていきました。 を見て、与右衛門さんは言いました。 な里芋ですな。こんなにもらって 世話になってありがとうございま 里芋を抱えて入ってきた与平さん てきました。食べてください。」 す。今日は里芋が取れたので持つ 与右衛門さんの話に、ヨシさんは **与平**「与右衛門さん、いつもお

ができると相談に来ました。また、 **与平**「どうぞ、どうぞ。与右衛門さ 与右衛門さんの話はわかりやすかっ て下さる。』と、村びとは困りごと にでも分けへだてなく親切でした。 与右衛門さんは、このようにだれ ってみんな大喜びですよ。また、 んにはいろんなことを教えてもら お願いします。」 『与右衛門さんなら、きっと教え

> 江の各地からも、学問を習いに来ま 門人もふえ、四国の大洲や京都、近 きました。 衛門さんは、自分の学問を進めてい たので村びとだけでなく、 した。その忙しい合間をぬって与右

深々と頭

家の庭に大きな藤の木があることか と親しみを込めて呼ぶようになりま いた村の人たちは、与右衛門さんの そんな与右衛門さんをいつも見て 『藤樹さん』『藤樹先生』 いつの間にか (おしまい)

った。し れはよか すか。そ

お 知 5 せ

$\stackrel{\wedge}{\sim}$ 『紙芝居』の販売

お求めください。 作しました。ご入り用でしたら 十八巻の『藤樹紙芝居』

☆ 『紙芝居』の出前

幼・こども園、自治会のサロン、 福祉施設などへ紙芝居の出前を します。 ご要望があれば、学校、保・

連絡先 藤樹書院・良知館内

〇七四〇38四一五六

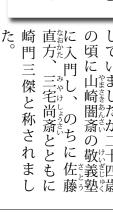
博之

れました。 島郡太田村の医家に生ま 応元年(一六五二)に高 者である浅見絅斎は、承江戸時代中期の朱子学

やわらげるために、網を「錦を着ても、その輝きを 路の「錦」と『中庸』 号は塾があった京都錦小 まとう」の教えにならっ 名は安正、 晩年につけた自号で 号が絅斎です。 通称は この 重次 0)

高島の先人に学ぶ

直方、三宅尚斎とともにではから、三宅尚斎とともにの頃に山崎闇斎の敬義塾の頃に山崎闇斎の敬義塾 はじめは京都で医者を 一傑と称されま



本復斎、谷秦山などがいます。門人には若林強斎、三宅観瀾、に残されています。

Щ

記録した『師説』と称される筆記類

し、その講義の内容は、 六十歳で亡くなるまで、

弟子たちが 門人に教授 この塾で正徳元年(一七一一)に



浅見絅斎 肖像

絅斎の著書

『靖献遺言』

遺言』を編纂しました。ら、四年の歳月をかい

、四年の歳月をかけて『靖献 絅斎は貞享元年(一六八四)か

中国歴代の忠臣義士とされる

上とされる屈っぱれる目が

、自分が生まれた土地に劣等感を抱

絅 横井川 斎

 \neg

浅見

絅斎の門人

祥原が

謝諸葛亮、

劉忠、方り間の別によった。

方孝儒の八名の明、顔真卿、文天明、顔真卿、文天

文がたてん

くのは

無用

で、

その

場で生きるた

めの精進に励めばすなわちそこが

(世界の中心) である〉を理

れています。

この『靖献遺言』は当時の人々だ

されています。

念として、門人の教育にあたったと

人物の遺文とその略伝、

論評が記さ

て「浅見絅斎邸址」の石碑が建てら の敷地の一角に京都市教育会によっ に尽力しました。現在、 と名付けた私塾を開き、 れています。 、生涯士官せずに、「錦陌講堂」絅斎は徳川紀州藩などの招きを断 門人の教育 大丸京都店



錦陌講堂跡

もこれら八名の一人に自分を重ねて

されています。西郷隆盛、

高杉晋作

言』の詩を吟じることが多かったと

詩をつくっています。

が歌われたとされ、特に

幕末の志士の会合では、

よく詩吟 『靖献遺

影響を与えました。

書として読まれ、明治維新に大きな けでなく、幕末には勤王志士の必読

絅斎の顕彰

石碑

『靖献遺言』を懐中にしていたと伝 寺田屋事件にて命を落とした薩摩 崎門学派の学を修めています。 娘の信を妻にしています。 雲浜

> ど、絅斎の功績が現在も継承されて て、 地にある絅斎の墓所の修復。 います。 により没三百年祭が開催されるな が発足。平成二十三年には、 十一年には、京都市東区の鳥辺山墓 旭町太田に絅斎書院が完成。 大正十三年に絅斎の故郷である新 昭和五十二年に絅斎書院保存会 保存会 昭和五 そし

『靖献遺言』が与えた影響

門学を学んだ上原立斎に教えを請 めたる男」と評されています。 った吉田松陰から「靖献遺言にて固 えられるほか、梅田雲浜も交際のあ 福井の橋本左内は外出の時に常に の有馬新七は『靖献遺言』を研究 は絅斎の同郷(高島郡北畑村)で崎 て本書を熟読したことが 松陰は絅斎の「華夷弁別」記』に記されています。 吉田松陰もまた「野山の獄」にあっ 『野山獄読

には「赤心報国」の文字が刻まれて

絅斎は常に長刀を帯び、

刀の金具

たとされています。



浅見絅斎先生之墓

中江藤樹 にご参加ください ・心のセミナー」

★日時 二月十日(土) (平成三十年) 午後一時半~

★演題 ★場所 『真の「代表的日本人」 安曇川公民館 ふじのきホール 中江藤樹に学ぶ』

作家 明夫 氏

【講師プロフィール】

がけている。 陽明学的な生き方を貫きつつ、現代 梓、二〇一五年に本書の英語版が刊 知られる。その研究成果を、九四年 R・シュタイナーらの思想とを比較 陽明の思想と、日本の禅、ゲーテや 人向けの活きたテキストを数多く手 都会議」に実践部会を代表して登壇。 行された。九七年に「国際陽明学京 に『真説「陽明学」入門』として上 融合させた独自の視点による研究で 長崎県生まれ。実践哲学としての王 作家・陽明学研究家。一九五二年 著書は他に『真説「伝

藤樹記 念館通 信⑥

藤樹の生涯と思想から学ぶ 富永 雄教

だいています。 阜県などからも多くの方に来ていた また、愛知県、 を加えると県外の約半数になります。 割を占め、その次の京都府と兵庫県 多かったのは、大阪府で県外の約三 果、八月から十二月までに来られた られたかをお聞きしており、その結 今後の参考のため、どの方面から来 研修の一貫として学ばれています。 ます。団体としては、企業や大学、 与えた人々などを熱心に学ばれてい や思想、そして、中江藤樹が影響を 多くの方が来られ、中江藤樹の生涯 各地から、個人または団体として、 方面で最も多かったのは、 人の方が来られました。八月からは、 九か月間に、当記念館へ約四千六百 で活かされることを願っています。 たくましく生きるために、多くの面 これからの時代を心豊かに、そして ここ記念館や藤樹書院等での学びが、 小中高等学校、社会教育団体などが 今年の四月から十二月にかけての 残りの約半数の県外の方面で最も 本記念館には、年間を通して全国 全体の半数を上回っています。 岡山県、奈良県、岐 全国三十以上の都府 東京都、富山県、愛 滋賀県内

> び、人間としての正しい生き方を求 少ないのが残念です。地元の日本に 県外全体の三%を越えています。 東北や九州からも来られています。 県からお越しいただき、遠方からは 涯や思想のことをより多くの人が学 おける偉大な先覚者、中江藤樹の生 の人数は、滋賀県全体の五分の一と 韓国、台湾、ドイツなどからも来ら をもって生きることが、市のさらな め、地元への愛着と誇り、夢と希望 れています。国外から来られた方は 国外では、 一方、個人の来館者数の内、 中国からが最も多く、



大洲城と故郷の小川村を望む藤樹像 洲入り 中江藤 してか 四百

の必要性を強く感じていました。 ような その

> たり、 びをもとに、「大洲における中江藤 を進めています。 博物館や大洲藤樹会との交流も深め 当記念館の職員が大洲市を訪れ、博 ら特別展が開催されていたことから 樹」をテーマにした小企画展の準備 ることができました。現在、その学 物館や史跡等から多くのことを学び 大洲市立博物館で、 + 月か

賛助会員 、 一 覧

ご協力ありがとうございます

○ウェストレイクホテル可以登楼

〇株式会社 大山建設

る発展にもつながると考えます。

また、来館者への説明や質疑の中

○株式会社 桑原組

)川島酒造株式会社

○有限会社 宏和商事

○税理士法人・小畑会計事務所

○有限会社 白浜荘

○社会福祉法人 新旭みのり会

職員がより実感を持って説明ができ

になることが多いことから、本館の 変重要な大洲時代の十七年間が話題 として、儒者として育っていった大 で中江藤樹が子どもから立派な武士

るよう、大洲での史跡等の現地研修

○ソエダ 株式会社

○株式会社 TADコーポレーション

○鉄屋商事 株式会社

〇株式会社 戸井薬局

○とも栄 藤樹街道本店

○中村印刷 株式会社

今年は、

なか、

〇ニッケイ工業 株式会社

○株式会社 中村測量設計

○有限会社 馬場塗装)八田建設 株式会社

〇三田村印刷 株式会社

○有限会社 綿庄食品店

ど。共著に『「江戸しぐさ」完全理

(越川禮子)などがある。

の思想を巡って』『志士の流儀』な ニッコリやれる陽明学』『山田方谷 習録」入門』『イヤな「仕事」も

(五十音順)